

鳥取県

学校給食会だより



12月号(No.194)

(公財)鳥取県学校給食会
鳥取市安長字前内387-1
(TEL)0857-23-7084
(FAX)0857-27-8040
E-mail:kenkyu@togk.or.jp

平成29年12月15日 文責:佐竹香寿代
HPアドレス: <http://www.togk.or.jp>

先月号の学校給食会だよりで食中毒予防について寄稿していただき、紹介させていただきましたが、これからの季節は食中毒に加え、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症も流行し始めます。早くもインフルエンザは、県内全域で患者数が増加しており、今後の流行状況に注意が必要です。

一人一人が意識を高め、次のことに注意をして予防をしましょう!

- こまめな手洗いを心がけましょう。アルコールによる消毒も効果的です。
- 睡眠時間を十分にとり、栄養にも気を配りましょう。
- 咳やくしゃみなどの症状がある場合は、咳エチケットを心がけましょう。
- インフルエンザ症状がある場合は、マスクを着用して、早めに医療機関を受診しましょう。
- 重症になるのを防ぐ効果があるので、できるだけワクチンを接種しましょう。

食育コラム～冬至の日に～



今年の冬至は12月22日(金)です。冬至とは1年で最も夜が長い日のことで、つまり太陽が出ている時間が短いということです。

この冬至の日には、昔から「かぼちゃ」を食べる習わしがあります。しかし、夏が旬のかぼちゃをなぜ冬至の日に食べるのでしょうか?夏野菜のかぼちゃは保存が効く野菜で、採ってすぐ食べるより少し寝かせると栄養分が更に増えるといわれています。また、身体が温まり免疫力も上がるので冬を乗り越えられ、風邪予防のために良いとされてきました。

そして、かぼちゃの他に「ん」の付く食べ物が縁起のいい食べ物と言われてきました。これを運盛(うんもり)といいます。実は、かぼちゃも漢字で書くと南京(なんきん)と呼び、運盛りの食べ物のひとつです。他にも「冬至の七草」と呼ばれ「ん」が付く縁起が良いものがあります。

- 南京(なんきん) ・蓮根(れんこん) ・人参(にんじん) ・银杏(ぎんなん)
- 寒天(かんてん) ・金柑(きんかん) ・饅頭(うんどん=うどん)

これら、冬至の七草には「ん」が2個も付いていて、たくさんの「運」が呼び込めるといわれます。是非、冬至の日にこれらの食べ物を食してみてください。

参加者募集中

今年も「お米を使った朝食献立コンクール」を開催いたします。
応募締め切りは、平成30年1月12日(金)です。
お米を使った朝食献立を考えて応募してください。
たくさんの応募をお待ちしております。

お米を使った朝食献立コンクール
(2人1皿)

平成30年2月17日(土) 午前10時30分～

会場 鳥取短期大学 (倉吉市) 朝ごはん!

問合せ先 (公財)鳥取県学校給食会 TEL.0857-23-7084

詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.togk.or.jp>

主催: (公財)鳥取県学校給食会
後援: 鳥取県教育委員会 鳥取県学校栄養士協議会
鳥取県PTA協議会 JAグループ鳥取

第68回全国学校給食研究協議大会 鹿児島県大会



学校給食支援事業の一環として、毎年、全国学校給食研究協議大会への派遣を行っております。報告をいただきましたのでご紹介いたします。

「生きる力」を育む食育の推進と学校給食の充実
～維新に学び、食でつながり、食で育てる、健やかな子供～

11月9日(木) 全体会 若桜学園小学校 栄養教諭 池田和子氏

展示 鹿児島県内の歴史と郷土料理、小中学校での食育の取組、地形や地場産物の紹介、各市町村での食育の取組、衛生管理についてなどの掲示がテーマごとに行われていた。実物大「桜島大根」や「かじきまぐろ」の模型などインパクトのある掲示が多くあった。



1. 開会式 2. 文部科学大臣表彰式 3. 文部科学省説明

●文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課長 三谷卓也氏

第3次食育推進計画(H28～32)について、「中学校給食90%」は達成されたが、「朝食欠食0%」「学校給食地場産物利用率30%以上・国産食材利用率80%以上」は未だ達成されていない。今後もより一層の努力をお願いしたい。また、学習指導要領の改訂について、何ができるのか、何をどのように学ぶのかを考える必要がある。食育の推進については、総則にも教育活動全体を通じて適切に行うよう努めるとあるので再確認して取り組むように。

●学校給食調査官 齋藤るみ氏

学校給食の管理について、栄養教諭は「栄養管理者」であり「衛生管理責任者」である。その上で、食に関する指導をすることで教育上の効果を表す。学校給食を活用した食育の推進には、毎日の学校給食が教材となることを再確認し、学校給食の充実を図る必要がある。

4. 特別講演 「彩のある食と音楽」 シンガーソングライター 辛島美登里氏

鹿児島県出身、「サイレント・イヴ」など数々のヒット曲をもつ辛島氏は、鹿児島の薩摩大使であり、故郷の活性などに携わっておられる。ヒット曲の「サイレント・イヴ」など弾き語りも交えながら、彩のある食をテーマに、給食の思い出や食べ物でのつながりなど話された。「学校給食」は、だれでも食べているので「共通のコミュニケーションツール」であるということ。また、「いろいろな人がいろいろな好みがあるという学びの場」でもあるということや「おいしいと思える時間があると心が豊かになる」という言葉が印象的であった。子どもたちの心が豊かになるような給食の提供をしていかななくてはならないと改めて感じた。

11月10日(金) 分科会「特別支援学校における学校給食の在り方」

【研究主題】児童生徒の障害に応じた学校給食の提供及び食に関する指導はどのようにしたらよいか。

研究発表「児童生徒の実態に応じた学校給食の取組～摂食・嚥下機能に応じた食形態の充実を目指して」

鳥取県立鳥取養護学校 学校栄養職員 山本貴美子先生

児童生徒の障害に合った特別食の対応についての取り組みを発表された。教職員だけでなく、家庭や医療機関とも連携し、「チーム鳥養」として一人一人の食形態に応じた支援を行っておられた。特に新たな食形態(ゼリー食)の導入については、他県でも例が少なく、先進的な取組であった。また、食育の取組として、校内の図書館や掲示などに食育コーナーを設け、発達段階に応じ興味関心を引くような仕掛けを行い「校内に食育の種を蒔いている」とのことで大変参考になった。宇高耳鼻咽喉科医院院長宇高二良先生より、学校給食は教育活動なので医療とは分離されているが、事故が起これば「医療事故」となる。また、保護者の意見が加わることで学校の中では完結しないため、必ず医療の意見を入れる必要があると助言があった。

今回の研究協議大会に参加し、栄養教諭として学校給食の在り方について考える場面が多くありました。また、分科会での「チーム学校」としての取り組みや支援体制は大変勉強になりました。今後も専門職として資質の向上を図り、児童生徒の心と体の健康に役立つ給食づくりに励みたいと思います。